

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	21H04983	研究期間	令和3(2021)年度 ～令和7(2025)年度
研究課題名	半定住狩猟採集民の社会組織と葬制：骨考古学先端技術との連携による先史社会の復元	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	谷口 康浩 (國學院大學・文学部・教授)

【令和5(2023)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、縄文時代早期にあたる居家以岩陰遺跡より出土した人骨、考古遺物、動植物遺存体を対象に自然科学を含む多角的な分析によって、血縁関係と社会構成(性別・年齢)、生活史と健康状態、資源利用と生業活動、葬制などを復元し、縄文文化の基礎を築いた社会の様相に迫ることを目指している。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で一部の調査が延期されている点を除けば、当初の計画どおりに研究が展開されている。特に本研究の特色である「人骨、考古遺物、動植物遺存体を対象に自然科学を含む多角的な分析」によって、新しい知見が上がっている点は評価できる。今後、残された研究期間で、調査遺跡や分析事例数が増加すれば、更なる成果が上がるが見込まれる。また、本研究の研究手法を含め、それによって上げられた研究成果の国内外への更なる発信にも期待する。</p>		